

第13回横幹連合コンファレンス開催報告

早川有*1・横川慎二*2

第13回横幹連合コンファレンスは、2022年12月17日(土)、18日(日)の2日間、早稲田大学国際会議場(早稲田キャンパス)を拠点とするハイブリッド形式で開催されました(Fig. 1)。今回の大会テーマは、「データサイエンスで拓く横幹科学技術の新展開」です。新型コロナウイルスをはじめとする様々な危機に直面する中で、データとデータサイエンスの重要性が再認識されています。ポストコロナを目指す社会には、データサイエンスを鍵として広い範囲の学術分野が融合して産まれる新たな知が必要と考えられます。横幹連合コンファレンスは、そのような異分野の研究者が集い、より高密度なディスカッションを行うことが可能な、数少ない機会のひとつです。企業経営の分析、社会活動の分析、国民の生活行動研究、地球観測、行政課題などのさまざまな分野における最新の研究成果を核として、横断的に統合することを通して新しい社会的価値の創出をもたらす意欲的な企画が提案されることを期待し、本大会のテーマが選ばれました。

2日間で150名の参加者が集い、企画セッション15件、一般セッション1件、およびポスターセッションにおいて、それぞれ71件、5件、25件の講演発表が行われました。ポスター講演発表25件の内2件は、企画セッションでも発表されたもので、より議論を深められたと思われまます。Fig. 2にプログラム概要を示します。また、15件の企画セッション、およびそのオーガナイザはTable 1にまとめられています。

開催初日、田中愛治氏(早稲田大学総長)に「今後の日本の大学教育に必要なことは何か? 一文理の連携をめざして」というタイトルで特別講演をいただきました。日本の社会と大学が直面している長期的・中期的課題についてのご説明から、現在、日本の大学にとって、文理間のインターフェイスを持てる教育の必要性について具体的な方策も交えてお話いただきました。文理の連携と共創を担う次世代の育成と継承のために、大学の果

*1 第13回横幹連合コンファレンス実行委員長・早稲田大学

*2 第13回横幹連合コンファレンスプログラム委員長・電気通信大学

Received: 31 January 2023

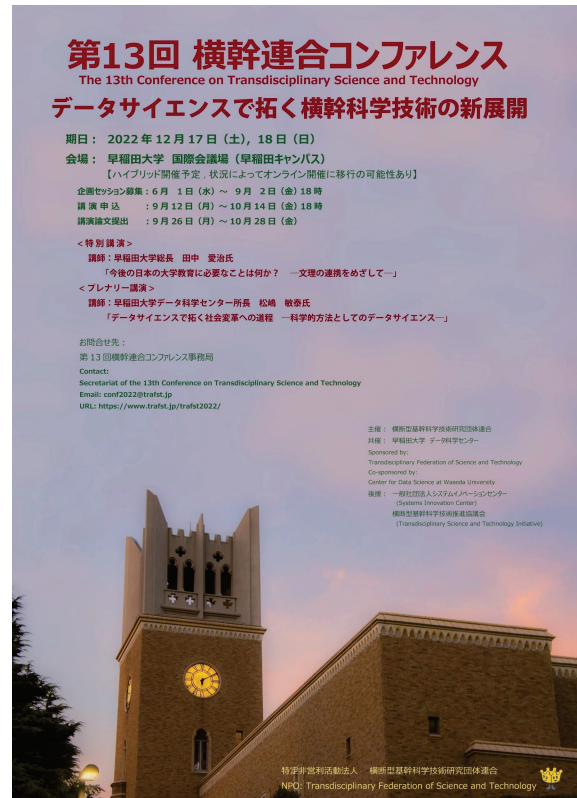


Fig. 1: 第13回横幹連合コンファレンスポスター

たす役割と責任について考える機会をいただきました。

また、プレナリー講演では、松嶋敏泰氏(早稲田大学データ科学センター所長)に「データサイエンスで拓く社会変革への道程 一科学的方法としてのデータサイエンス」のタイトルでご講演いただきました。データサイエンスを、データからの科学的方法による意思決定の科学と位置づけ、社会を変革してゆく方法としての手順と論理をお話いただきました。また、早稲田大学データ科学センターにおいて、データサイエンスを正しく使える人材育成の取り組みについて述べていただきました。

コンファレンスの根幹となる企画セッションとしては、SDGs, DX, STEAM 人材育成, コトづくりなどの社会変革の方向づけや、With コロナ, 企業経営, 都市・

第13回横幹連合コンファレンスプログラム概要
2022年12月17日(土), 18日(日)
早稲田大学国際会議場

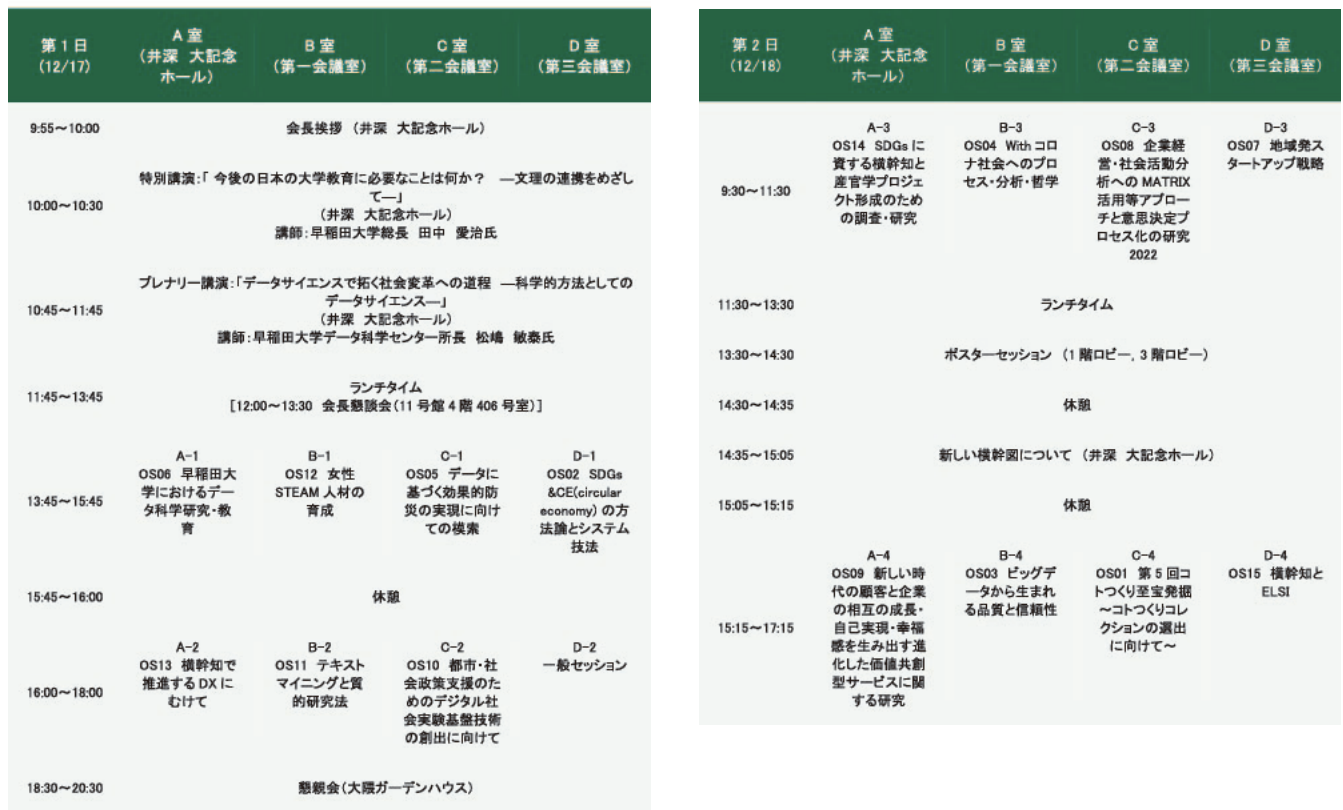


Fig. 2: タイムテーブル

Table 1: 企画セッション一覧

OS番号	OSテーマ	オーガナイザ	発表数
OS1	第5回コトづくり至宝発掘〜コトづくりコレクションの選出に向けて〜	川中 孝章(東京大学)	5
OS2	SDGs & CE(circular economy) の方法論とシステム技法	新目 真紀(職業能力開発総合大学校)	5
OS3	ビッグデータから生まれる品質と信頼性	田村 慶信(山口大学大学院)	4
OS4	Withコロナ社会へのプロセス・分析・哲学	鈴木 和幸(電気通信大学)	3
OS5	データに基づく効果的防災の実現に向けての模索	有馬 昌宏(兵庫県立大学)	5
OS6	早稲田大学におけるデータ科学研究・教育	松嶋 敏泰(早稲田大学理工学術院)	4
OS7	地域発スタートアップ戦略	板倉 宏昭(東京都立産業技術大学院大学)	4
OS8	企業経営・社会活動分析へのMATRIX活用等アプローチと意思決定プロセス化の研究 2022	大場 允晶(アフターデジタルDX研究所, 神奈川大学)	7
OS9	新しい時代の顧客と企業の相互の成長・自己実現・幸福感を生み出す進化した価値共創型サービスに関する研究	椿 美智子(東京理科大学)	5
OS10	都市・社会政策支援のためのデジタル社会実験基盤技術の創出に向けて	貝原 俊也(神戸大学), 寺野隆雄(千葉商科大学)	5
OS11	テキストマイニングと質的研究法	三好 きよみ(東京都立産業技術大学院大学)	5
OS12	女性STEAM人材の育成	木野 泰伸(筑波大学)	4
OS13	横幹知で推進するDXにむけて	山本 修一郎(名古屋国際工科専門職大学)	6
OS14	SDGsに資する横幹知と産官学プロジェクト形成のための調査・研究	椿 美智子(東京理科大学)	6
OS15	横幹知とELSI	遠藤 薫(学習院大学)	5
一般	一般セッション		5

社会政策支援などの社会要請への対応など、本コンファレンスの特色である広い学術分野をカバーする議論が行われました (Table 1).

今回、完全オンラインの開催形式では難しかったポスターセッションが復活いたしました。異分野の研究者とのより高密度なディスカッションによって新しい発想が得られる機会を、大学院生を中心に活用していただけたと考えております。

3年ぶりに現地参加も可能なコンファレンスとなり、初日のセッション後に早稲田キャンパス内にある大隈ガーデンハウスにて懇親会を開催することができました。セッション会場以外でインフォーマルに意見交換を楽しんでいただけたと思います。また、横幹連合設立20周年にあたる記念すべき2023年には、第14回横幹連合コンファレンスが東京大学で開催されることがアナウンスされました。

本コンファレンス開催にあたり多くの方々にご尽力いただきました。まず、コンファレンスにてご発表いただ

いた皆様に御礼申し上げます。様々な講演、企画および一般セッション、ポスターセッションによりプログラムを構成し、有意義な情報交換と議論を行うことが出来ました。次に、開催準備に携わっていただきました実行委員会の皆様、企画セッションオーガナイザの皆様、並木正美事務局長をはじめとする横幹連合事務局の皆様、共催先の早稲田大学データ科学センター事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。高木真人副会長をはじめとする学術・国際委員会の皆様にはプログラム全般・コンファレンス運営について様々なご助言をいただきまことにありがとうございました。秋元良友氏、嶋田香奈子氏にハイブリッド開催の準備・運営統括をご担当いただきました。また、学生アルバイトの方々にもハイブリッド形式での発表がスムーズに行われるようサポートいただきました。最後に、今回初めてのハイブリッド形式による開催にもかかわらず、コンファレンスを成功裏に終了できましたこと、ご参加いただいた全てのみなさまに謝意を表します。